

第 3 回地域医療構想調整会議の結果概要

1 議事内容

県内の構想区域間における患者の流出入について議論するとともに、2025 年のあるべき医療提供体制を目指す施策を検討するために、データを基に各地域の現状を把握する。

2 議題に関する各地域の考え方

地域	時期	県内の構想区域間調整の方向性	データ分析に対する主な意見
横浜	1/22	高度急性期：医療機関所在地 急性期、回復期、慢性期：患者住所地	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3つの二次医療圏を併せたデータを可能な限り見たい ・ がんについては、より自己完結率を高める必要がある。5大がん以外のデータも提示してほしい ・ 同じ急性期でも急がない疾患（がん）と急ぐ疾患（急性心筋梗塞、脳卒中）がある。それぞれの疾患特性を踏まえて対応を考えるべき ・ 回復期が不足することは分かるが、不足数が多すぎて推計された必要病床数をすべて満たすことは現実的ではない ・ 必要病床数をすべて満たすための医療従事者の将来的な必要数を示してほしい
川崎	1/20	高度急性期、急性期、回復期、慢性期：医療機関所在地	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2つの二次医療圏を併せたデータを可能な限り見たい ・ 慢性期や在宅医療の施策の検討にあたっては、地域完結を目指すべき
相模原	1/18		<ul style="list-style-type: none"> ・ 隣接する地域の状況も確認した上で他区域に依存するのか自区域で対応するのか検討する必要がある ・ 脳卒中は分析のとおり充実が必要 ・ 医療従事者の将来的な必要数を示してほしい
横須賀・三浦	1/14	高度急性期：医療機関所在地 急性期、回復期、慢性期：患者住所地	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療従事者数は、全国平均と比較するべき ・ 回復期、慢性期になるに従い医療従事者の確保が難しくなるが、どのように確保するか検討が必要 ・ 在宅医療等の推計数に対する医療従事者の必要数を示してほしい
湘南東部	2/1	高度急性期、急性期、回復期：医療機関所在地 慢性期：患者住所地	<ul style="list-style-type: none"> ・ がんの手術別、入院と外来別の自己完結率のデータも示してほしい ・ 三次救急の自己完結率のデータも示してほしい。救急は、小児と成人を分けたデータも示してほしい ・ 地域内で東部と西部では流出入の特性が異なる。急性期、回復期では、特に藤沢市から鎌倉市への流出が多いが、医療機関の配置等を考えると二次医療圏を越えて受療することもやむをえない ・ 30分以内で救急対応できるような体制を作ることが重要
湘南西部	2/5	次回会議で決定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東海大学で他地域から多くの患者を受入れており、この状況を踏まえて医療提供体制を考えるべき ・ 秦野市のアクセス状況等が悪い。時間をかけて議論すべき

県央	2/4	高度急性期、急性期、回復期、慢性期：患者住所地	<ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者の高齢化が進んでおり、今後も確保できるのか不安 ・推計ツールは2013年の医療体制をベースにしているが、現在進んでいる医療機関の再編の状況などを踏まえて将来の医療提供体制を考えていくべき ・二次救急、三次救急は引き続き確保する必要がある。
県西	2/10	高度急性期：医療機関所在地 急性期、回復期、慢性期：患者住所地	<ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者数は、全国平均と比較すべき ・脳卒中への対応が課題。産科、小児についても考えるべき ・急性期を減らして、急性期病院が在宅医療の急変時対応ができなくなると在宅医療にも影響が出る ・高齢者が増えると肺炎や骨折が増える。こうしたデータも示してしてほしい。これらの疾患は急性期や回復期など地域密着型の医療機能で対応すべき
県 (推進会議)	12/22	<p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療構想の実現には医療と介護の連携による地域包括ケアシステムの構築が重要 ・将来の必要病床数や在宅医療のニーズに対する医療・介護従事者の必要数についてのデータも必要 ・第4回会議において必要病床数を決めた後にも、地域の意向により病床数が調整できる余地を残してほしい 	

3 その他の主な意見

- ・病床機能報告制度の定義が不明確なため、各病院が医療機能を**正確に報告**していない。特に回復期の定義が曖昧であり、回復期が大幅に不足しているという結果の一因になっている。
- ・10年後の目標を今から考えるのには責任が重過ぎる。必要に応じて見直しをしてほしい。
- ・2035年には患者数が減少することを見越すと、2025年の必要病床数を実現することは本当に適切なのか慎重に検討すべき。

(以上)